

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

授業担当者

所属/職名: 農学部/准教授

氏名: 肥山 浩樹

授業科目名	学外研修
研修先(国・地域) 滞在地	フィリピン共和国
研修期間	平成29年 9月25日 ~ 平成29年 9月30日
<p>〔研修の成果〕</p> <p>アンガット川灌漑用調整ダムやバラナク川ダムを見学し、施工や管理に携わる技術者からレクチャを受けることで、現在学んでいる講義や実習の意味を再確認することが出来た。また、これらの灌漑システムを利用している農業者と直接意見交換することで、彼らの抱えている課題や将来への抱負について知ることが出来た。さらに、これらの施設建設の発注者であるフィリピン国家灌漑局(NIA)の担当者、設計に関わった日系コンサルタントの駐在員およびフィリピン国内でODA関連業務に携わるJICA職員から実務の解説を受け、単なる建設技術の輸出による生産性向上を目指した国際協力だけでなく、地域住民の組織作りや環境保全への取組などのソフト面での支援も重要であることが理解できた。</p> <p>国際稲研究所(IRRI)では、博物館を見学し、世界中の稲作の歴史や文化に触れることが出来た。また、研究フィールドでは、様々な気象条件に応じた品種が開発されていることや環境負荷の少ない栽培技術の研究が進められていることを知ることが出来た。</p> <p>フィリピン大学ロスバニョス校では、学校長を表敬訪問した後、農業工学研究所を見学した。フィリピンにおける最先端の研究を伺い、日本より実務的な内容であることを知った。また、地盤工学の授業を参観し、日本と較べれば充分と言えない設備でも高度な内容の講義が行われていることを実感した。さらに、フィリピン大学生の前で日本の文化についてプレゼンテーションするとともに意見交換を行った。慣れない英語でのやり取りであったが、留学中の日本人学生や日本事情に詳しい現地教員のサポートもあり、概ねこちらの話は通じた。</p>	
<p>〔今後の課題〕</p> <p>学生の実用的な英語力が低いことが最も問題であった。見学先や訪問先ではほぼ英語しか使われず、引率者は時間を割いて重要なポイントを通訳する必要があった。また、治安の悪い国への渡航は学生全員が初めてであり、細かい注意が必要であった。いずれも、事前講義を通して指導してきたが、彼らの想像を超えていたようである。さらに、日本で学んだ知識が十分身についておらず、本来判っているべき専門用語が理解できないケースが多々あった。この点についても、事前講義を通して準備する必要がある。</p>	